

# 連立の行方

④

## 与野党キーマンに聞く

### 細野 豪志

民主党幹事長代理

—参院で野党が多数を占める「ねじれ国会」をどう受け止めますか。

◆選挙で負けた意味で民主党には非常に厳しい状況だが、マイナスだと思われてきた「ねじれ」をプラスに変えられる可能性もある。与党は政府を後押しする立場として国会での議論に消極的だったが、国会で議論、調整して物事を決めなければならぬ状況になった。野党も拒否だけしている。国政が停滞する中で、双方が動かないといけない状況だ。「熟議」を大事にする新たな政治文化を作ることができるかもしれない。

—「熟議」というのは何ですか。

◆徹底して議論をし、自分と違う意見を耳を傾ける。そうした議論のプロセスを大事にし、当初自分が考えた結論と違う結論になっても、それを受け入れるということ。それを与野党双方が許容できれば、いろいろな政策で折り合いがつく。

—そのためには何が必要でしょう。

◆二つある。一つは個別の政策をしっかりと議論して調整していく現場の力。もう一つは、国会のあり方を変えていくエネルギーだ。例えば、会期を区切られているため日程闘争ばかりする国会のあり方

## 徹底議論で「ねじれ」を好機に

を変えたり、場合によっては党議拘束を緩めて自由投票を認めたりする仕組み作りが必要だ。

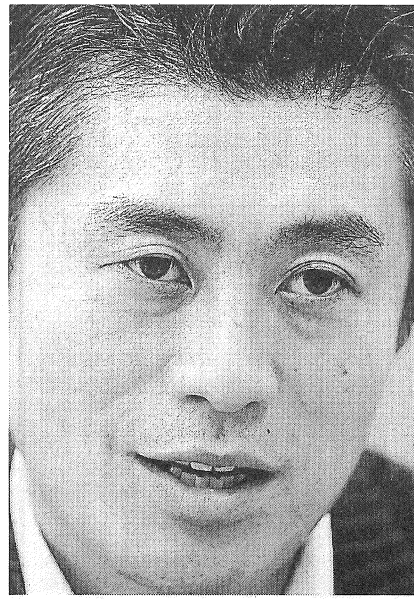
—子ども手当など選挙の争点となった政策には野党も厳しく対応せざるを得ないのではないですか。

◆マニフェストの実現には最大限努力すべきだが、国会で法律が通らないと予算の執行もできないのも現実。その中で折り合いをつけるプロセスを国民にみてもらうことが必要だ。例えば「民主党は子ども手当について元々こう考

えていたが、他党の考え方も含めてこのような結果になった」という途中のプロセスも含めて国民にしっかりと説明し、理解を求める姿勢が大事だと思う。

—自民党の河野太郎幹事長代理も「ねじれ国会」を歓迎しています。野党への、または野党からの呼びかけをどう考えますか。

◆民主党は9月に新しい体制になるので、新体制の下で党としてしっかりと受け止めていくことが大事だ。ただ、国会の慣習に慣れ切った人には



—藤井太郎撮影

変える発想が出てこないし、国会の仕組みをまだ分かっていない人にも変えるプロセスが分からない面がある。そういう意味では、我々のような議員生活10年前後の人間が、党内でも党派を超えても、いろいろな意見交換をする部分があっている。

—安定政権実現のために連立を組むことは考えないのですか。

◆基本的には連立ではない政策の動かし方を模索すべきだ。参院で3年に1回61議席（改選議席の過半数）を取るのは大変なことだから、今後は常に「ねじれ」を前提に考える必要がある。数が足りないから必ず連立するとなると、日本の政治は常に連立の組み替えを前提に動く。それは政治にとって良いことではない。選挙結果を受けて各政党がきちっと政策を実現していくのが基本だ。【聞き手・念佛明奈】

—つづく